

聖書の言葉

平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャロームタイムズ

2014年8月10日（日）発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

広島（ヒロシマ）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分。
原子爆弾トルボーイは、第33代アメリカ合衆
国大統領ハリー・S・トルーマンの原子爆弾
投下の大統領命令を受けたB-29（エノラ・ゲイ）
によって投下されました。

この1年に亡くなった方 5507人
計292325人

長崎（ナガサキ）

広島の数日後の1945年8月9日午前11時2分、
B-29（ボックスカー）が長崎市に原子爆弾ファット
マンを投下しました。

この1年に亡くなった方 3355人
計165409人



今年の絵本



「ちいちゃんのかげおくり」



夏の夜の空襲で家族と離れ、ひとりぼっちで町をさまようちいちゃん。悲惨な戦争の影に小さないのちを閉じた女の子の姿を静かに描いた絵本です。

雲一つない青い空をみあげると、ちいちゃんの姿が浮かんできます。「かげおくり」をして、空にいったあの子。

ちいちゃんのわらい声が、青い空からふってきます。

ちいちゃん一人ではありません。

たくさんのちいちゃん、たくさんのお兄ちゃんが、この世界にいました。いえ、今でもいるのです。

無限宇宙にうかぶ地球星が、たくさん子どもたちの喜びで光りますように。

それを不可能と思うとき、すべてが不可能になるのですから…

あまみきこ 作 上野紀子 絵 あかね書房

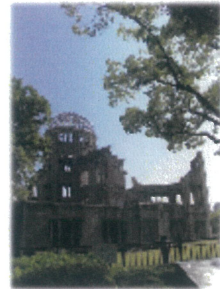
「ちいちゃんのかげおくり」 あとがきより



ヒロシマの有る国で

山本さとし 詩・曲

八月の青空に 今もこだまするのは
若き詩人の叫び 遠き被爆者の声
あなたに感じますか 手のひらの温もりが
人のくやし涙が 生き続ける苦しみが
わたしの国とかの国の 人の生命は同じ
このおおい大地の上で 同じ生を得たのに
ヒロシマの有る国で
しなければならぬこととは
とるる戦の火種を消すことだろう



かの南の国では 大國がのしかかり
寡黙な少年らは 重い銃に身をやく
やせた母の胸に 乳飲み子が泣きさけび
はだしではだかのまま
逃げまどう子どもたち
故国の土を踏むことも
家族と暮らすことも
許されない戦争が
なぜに今も起こる
ヒロシマの有る国で
しなければならぬこととは
とるる戦の火種を消すことだろう



日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の対戦権は、これを認めない。

俺たちは筋と話し合いで成り立ってる国
どうしの平和な状態こそ、大事だと思う。
だから国として、武器を持って相手をおどかしたり、直接なぐったり、殺したりはしないよ。もし外国となにかトラブルが起こったとしても、それを暴力で解決することは、もう永久にしない。戦争放棄だ。

2項で、1項で決めた戦争放棄という目的のために軍隊や戦力を持たないし、交戦権も認めないよ。大事なことから釘さしとくよ。

塚田 薫・著、長峰信彦・監修

『日本国憲法を口語訳してみたら』より

平和の祈り

- ◇世界で起きている戦争で苦しんでいる人たちが、希望の光を見いだせますように。
 - ◇世界には住む家もなく、食べる物もない友だちがいます。その友だちが幸せに暮らすことができますように。
 - ◇いつも変わらない日を過ごしていたあの夏の日、突然、原子爆弾によって、不安と混乱の中で過ごした人たちがいたことを忘れず、魂が慰められますように。
 - ◇69年前、戦争によって食べ物も食べられず暑い日差しの中で、生活に困ってたくさんの人たちが苦しんだことを忘れることがありませんように。
 - ◇東日本大震災から3年半が経とうとしているこの時、復興に少しでも近づいて、安心して生活できる日が来ますように。
 - ◇震災後、今も自由に外に出て遊ぶことができないお友だちがいます。そのお友だちが思い切り体を動かして遊べるようになりますように。
 - ◇毎日の生活の中で、ついイエスさまのことを忘れてしまいがちな私たちが、「ここにいていいよ」と一緒に歩いてくださるイエスさまに気づくことができるよう、私たちの心を励まし、強めてください。
 - ◇悲しく、つらい時にも、希望を捨てず、「いつもあなたがたと一緒にいる」と言ってくださったイエスさまの愛を信じていることができるように、私たちに力を与えてください。
- 今日の平和を語る会の時をありがとうございます。
今、みんなで心を合わせてお祈りしました。
わたしたちの祈りが神さまの御心にかなつたものになりますようにしてください。この祈りをイエスさまのお名前を通しておささげいたします。 アーメン。

長崎平和宣言

69年前のこの時刻、この丘から見上げる空は真っ黒な原子雲で覆われていました。米軍機から投下された二発の原子爆弾により、家々は吹き飛び、炎に包まれ、黒焦げの死体の散乱する中を、多くの市民が逃げまどいていました。凄まじい熱線と放射線は、7万4千人もの尊い命を奪い、7万5千人の負傷者を出し、かろうじて生き残った人々の心と体に、69年たった今も癒えることのない深い傷を刻みこみました。

今も世界には1万6千発以上の核弾頭が存在します。核兵器の恐ろしいさを身をもって知る被爆者は、核兵器は二度と使われはならない、と必死で警鐘を鳴らし続けてきました。広島、長崎の原爆以降、戦争で核兵器が使われなかったのは、被爆者の存在とその声があつたからです。いまわが国では、集団的自衛権の議論を機に、「平和国家」としての安全保障のあり方についてさまざまな意見が交わされています。

長崎は「ノーモア・ナガサキ」とともに、「ノーモア・ウオ」と呼び続けてきました。日本国憲法に込められた「戦争をしない」という誓いは、被爆国日本の原点であるとともに、被爆地長崎の原点でもあります。被爆者たちが自らの体験を語ることで伝え続けてきた、その平和の原点がいま揺らいでいるのではないかと、この不安と懸念が、急ぐ議論の中で生まれています。日本政府は、この不安と懸念の声を、真摯に向き合い、耳を傾けることを強く求めます。長崎では、若い世代が、核兵器について自分たちで考え、議論を広げ始めました。高校生たちが国連に届けられた核兵器廃絶を求める署名の数は、すでに100万人を超えました。その高校生たちの合言葉「ヒロヨクだけドムリヨクじゃない」は、一人ひとりの人々の集まりである市民社会こそが、最も大きな力の源泉だ、ということに思い起こさせてくれました。長崎はこれからも市民社会の一員として、仲間を増やし、NGOと連携し、目標を同じくする国や国連と力を合わせて、核兵器のない世界の実現に向けて行動し続けていきます。世界の皆さん、次の世代に「核兵器のない世界」を引き継ぎましょう。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から、3年がたちました。今も多くの方々が不安な暮らしを強いられています。長崎は今も福島の日も早い復興を願ひ、さまざま支援を続けていきます。

2014年8月9日 長崎市長 田上富久